

わが家のハザードマップ

家の中の地震対策は、身近な問題です。まず第一に家具の転倒や落下を防ぐこと、そして逃げ場になる安全な空間をつくっておくことがポイントです。

地震に強い家具

○金具の利用

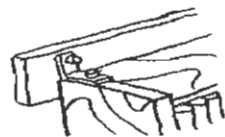
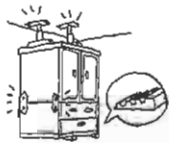
背の高い家具は、L字金具で固定。2段、3段重ねの家具は、特に倒れやすいので平型金具で連結します。

○転倒防止器具の利用

天井との間につばり棒をつける。また、下に転倒防止板などを差し込んで、壁や柱に寄りかかるように固定します。

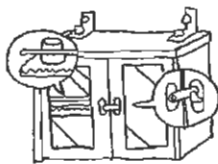
○家具の上

家具の上にガラスケースなどの割れやすいものは置かないようにしましょう。



食器棚

ガラスが割れ、中のものが飛び出します。飛散防止フィルムを貼り、滑り止めにタオルなどを敷きましょう。また、L字金具で壁に固定し、引き戸には止め金具を付けましょう。



ベランダや窓

手すりに植木鉢等の落ちやすいものを置かないようにしましょう。窓は、常に逃げ道を確保できるように、すぐ開けられるようにしましょう。

ピアノ

専用の転倒防止金具や、滑り止めをつけておきましょう。

台所

消火器を用意し、火元の近くに油や、ふきんなど、燃えやすいものを置かないようにしましょう。

収納棚

重いものは下の棚に移し、上に置くものは、落ちて大丈夫なものだけにしましょう。

玄関周り

玄関や縁側など外への避難路になるところは、通路に家具や物を置かないようにしてスペースを確保しておきましょう。

鏡

ガラス面に飛散防止フィルムを貼っておくと安心です。

照明器具

つり下げるタイプのものは、チェーンなどで天井に固定しましょう。

寝室

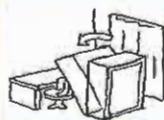
子どもやお年寄りのいる寝室にはなるべく背の高い家具を置かないようにしましょう。

テレビ

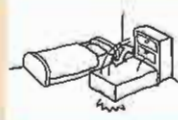
テレビはあまり高い位置に置かないようにしましょう。また、市販の耐震粘着マットを使用しましょう。

家の中に逃げ場となる安全なスペースを作りましょう。

部屋がいくつもある場合は、人の出入りの少ない部屋に家具をまとめ、広く安全な空間ができるように配置換えをしておくとう安心です。玄関場所や避難路を考えましょう。寝室や出入り口付近で家具の固定ができない場合には…



家具の配置は避難路内、確保できるように



寝る位置は転倒方向に注意するように



家具が倒れて怪人がないように

お年寄りや子どもが逃げ遅れないように考えましょう

就寝中に地震に襲われると、子どもやお年寄りなどは逃げ遅れる可能性があります。なるべく避難しやすい部屋に移り、背の高い家具などは置かないようにしましょう。